

静岡県漁業協同組合連合会
1045 静岡市追手町 9-18
15.6.6 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 丸榛吉田うなぎ漁協組合長に白石嘉男氏が就任

丸榛吉田うなぎ漁業協同組合では、去る5月30日総会を開催し任期満了に伴う役員改選後、組合長の互選を行った結果、代表理事組合長に白石嘉男氏(前専務)が、専務理事に岩ヶ谷博氏(前代表監事)が夫々就任しました。

2. 清水漁業協同組合に名称変更

清水市漁業協同組合(宮城島昌典組合長)では、去る5月10日臨時総会を開催し、旧清水市・静岡市が合併し新しく静岡市が誕生したことにより、清水漁業協同組合に名称変更することを決議し、同漁協では県に対し定款変更に係る認可申請手続きを行い、5月23日付で認可され正式に清水漁業協同組合となりました。

3. 6月1日より救命胴衣着用義務が法制化される

近年、マリレジャーの普及に伴うプレジャーボートに係る事故、また、漁業者の高齢化・一人乗り操業の増加等に伴う漁船に係る事故が多発している状況にあります。そのため、小型船舶の海難・海中転落による死亡・行方不明者を減少させるため、救命胴衣等の常時着用が極めて有効との観点から船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則第137条により救命胴衣の着用が法制化され6月1日より施行されました。

本法では、船外に転落した際に短時間で救助されるため適切な連絡手段を確保せずに、航行中の小型漁船(総トン数20トン未満)に一人で乗船して漁ろうに從事している場合には、ライフジャケット(救命胴衣)の着用を義務付け違反した場合には、免許停止・警告等の行政処分が科せられます。

着用する救命胴衣は、その船舶に搭載される救命設備(小型船舶用救命胴衣、小型船舶用浮力補助具又は、作業用救命道具のいずれか)を着用することになっています。

また、船外に転落した者が、海上に浮遊しながら他者に捜索救助を求めるための的確な手段を確保するため、防水機能付や防水パックに入れるなど防水措置された携帯電話を身につけることになりました。

4. 水産加工技術セミナー開催のお知らせ

水産物は、その用途や食味、季節性において極めてバラエティに富んでおり、地域ごとに優れた特色を有しています。また、水産加工品についても、各地域において漁獲された水産物を活用して地域色豊かな製品づくりが行われています。

しかしながら、新たな海洋秩序の導入・定着、輸入水産物の増大、製造物責任法(PL法)の施工、HACCP(危害分析重要管理点)手法の導入など、食品素材の供給や安全性、消費に係わる環境の変化、産地間競争の激化などにより、本県の水産業は、極めて厳しい状況に置かれています。

このため県水産試験場では、新技術の開発・導入による新製品の開発、消費者志向に基づく品質の高度化・安全性の確保あるいは廃棄物の有効利用などを推進するため、次のと

おり第35回水産加工技術セミナーを開催(参加費無料)します。

講演テーマ・講演者 「食品のトレーサビリティ - その現状と課題 - 」 = 独立行政法人農林水産消費技術センター横浜センター湯川所長 「マリンビタミンの効用 - EPA, DHAの利用および機能性における最近の動向 - 」 = 東京水産大学院水産学研究所矢澤教授 開催日時: 6月24日(火)13時30分 開催場所: 県水産試験場3F大会議室 申込方法: 6月16日までにFAXまたは郵送で、県水産試験場加工研究室宛〒425-0033焼津市小川汐入3690 TEL054-627-1815 FAX054-629-7350又は627-3084

5. 118番が運用開始から3年

海上保安庁による海の緊急通報電話「118番」が平成12年5月1日の運用開始から3年を経過し、この間の通報件数は累計261万3千通に達しました。これらの通報により遭難船舶1,727隻と遭難者5,298人が救助されるなど、海難救助や密航・密輸・密漁等の海上犯罪の防止に威力を発揮しています。

また、最近では海事・漁業関係者以外に携帯電話を利用した一般市民からの通報も増えており、マリレジャー等での事故の迅速な初動対応に大きく役立っています。

しかしその一方で、海難や海上犯罪等に関する有効な通報はわずか0.5%程度に過ぎず、大半が間違いやいたずら電話となっています。このため海上保安庁では海の緊急連絡手段としての118番通報の重要性と適正利用についてPRに努めるとともに、悪質ないたずらに対しては法的対抗手段を講じるなど、引き続き厳しい姿勢で対処していく方針を決めています。

6. 天然アユがのぼる川 100名川に選ばれた河川数 静岡県が1位に

日本釣振興会が選ぶ「天然アユがのぼる100名川」に県内の11河川が選ばれ、全国1位となりました。

県内で100名川に選ばれたのは、狩野川、興津川、安倍川、川津川、天竜川、稲生沢川、那賀川、大井川、太田川、仁科川、富士川の11河川です。2位は高知県の10河川(四万十川等)でした。

振興会が100名川を選定するのは今回が初めてで、水質の悪化などにより天然アユの遡上が減少し、養殖アユの放流を行う河川が増えたことから、アユ釣の振興を目的に実施されました。

選定では41都府県の管理漁協の協力を得て、釣り人にアンケートを実施し、さらに各河川の全漁獲量や放流量を基に、選考委員会が選定しました。今回の選定では残念ながら100河川には届きませんでした。全国の河川中91河川が選定されました。

県内の河川は天然アユが多いことに加え、流域に駐車場の整備や、河川管理状況などが評価され1位にランクされました。

7. 諸会議・日程(6月10日(火)~6月23日(月)) - 既報分省略 -

6月19日(木) 県漁業信用基金協会 = 通常総会 (ブケ東海静岡)

〃 〃 = 50周年祝賀会 (〃)

6月20日(金) 県漁連 = 通常総会 (県水産会館)

〃 県信漁連 = 通常総会 (〃)